

第143話 石沢太惣治の参詣日記 その2  中山町 歴史散策

石沢太惣治の伊勢参詣日記のうち、正月6日の日記には、「二里半 上ノ山、此処ハ松平山城守殿の御城下、知行三万石、町中温泉有り、八幡屋弥太郎方へ泊り、はたご二百文、六日出立ノ処、送リ人有リ」という記述があります。

送り人は、通常、村はずれまで見送るのですが、この時は下男が上山まで荷負いの役で同行しました。

同行者一同はまず山形に集合。旅籠町足利屋で昼食を取った後、同行者の見送り人を帰し、太惣治の下男だけがついて行ったようです。これは、忘れ物や村役の滞りなど、急な用向きの折の連絡用ということでした。

6日朝、上山出立の際、この送り人を帰して、いよいよ同行者だけの旅が始まりました。

この日の行程は、上山、榎下、赤山、金山、是羽新田(瀬場)、湯ノ原。およそ6里(約24km)ほど山道を歩いて、湯ノ原福嶋屋学蔵に宿泊。はたご180文、「大雪にて難儀致し、この村より出判すべし」と記されています。

一般に硬雪かたゆきの季節を狙って出掛けているのですが、伊達領では硬雪に至らず、深雪の道の難儀に遭ったのでしよう。以下の日記も同様ですが、通行手形を差し出すことではなく、宿場町では、出判手形(宿泊証明)を発行してもらうよう、後々旅に出る者に指示しています。

翌正月7日は、湯ノ原を発ち、峠田、関、渡ら瀬、下戸沢、上戸沢まで7里余を歩いて、上戸沢木村屋太郎右衛門泊り。はたご190文。「是ハ湯ノ原より庄屋御判此処に上ぐべし」とあるので、湯ノ原で申し受けた手形を上戸沢の庄屋で差し出し、ここで新しい手形を受け取ったということでした。

【用語の説明】

松平山城守・幕末まで藤井松平家は上山藩の大名であった。知行・俸給として大名に与えられた土地のこと。
上戸沢・下戸沢・渡ら瀬・関・滑津・峠田・湯ノ原・七ヶ宿街道の宿場町。

※引用 中山町史 中巻 第10章第1節 庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.11 

みなさんこんにちは。思ったより雪が少なくてホッとしている今日この頃の協力隊です。

もうすぐ3月ということで、現在協力隊は旧柏倉家住宅のひなまつりの準備のお手伝いをしています。昨年の3月1日に着任し、初めてのお仕事がひなまつりのスタッフだったこともあり、「もうすぐ1年かあ」としみじみ。あっという間のような長かったような…。

今年の旧柏倉家住宅ひなまつりは3月2日(土)～3月10日(日)となります。実は柏倉家に行ったことないなあという方、昔行ったけど最近行ってないなあという方、毎年見に行ってますという方、みなさんぜひ遊びに来てください！



写真は柏倉家にあった昔のおひな様の飾り方説明書。昔の人もどの順番だっけ？と並べる順番で悩んだのかなと思うと微笑ましくなります。紙の色合いも素敵です。